

## 1.研究目的

大量消費時代の現在、毎日多くの物が生産され捨てられている。紙もまた同様にデーター社会と呼ばれている今日だが紙の使用量は増え続けている。紙に関しては再生紙というものがあるにも関わらず再生紙に対する“質が悪い”というイメージと、自分が使用しているのにも気付かないという認知度の低さは問題だ。そこで再生紙の新しい可能性を考え暮らしの中に生かして行くことが環境保全の一步に繋がっていくのではと考えた。再生紙を使い今までにはなかった身近なものを制作し、イメージと認知度の向上を図る。

## 2.調査と分析

現代の人々が「再生紙」についてどの程度の知識、理解を持っているのか知るために、「再生紙の持つイメージ」について街頭調査を50人に行った。再生紙の持つイメージは汚い・黒い・弱いという回答がほとんどだった。そこで実際にネット上等に多く載っていた一般的な再生紙の作り方で再生紙を作ってみた。本来捨ててしまうチラシ等を破く→水と一緒にミキサーにかける→網ですく。という手順で再生紙を作ってみたところ、風合いが和紙に似た柔らかい光を通す紙ができるとわかった。しかしその反面、やはり一度繊維をバラバラにしてしまった紙は強度がとても落ちる事に気が付いた。この結果から強度の面を考え、人々が潜在的にマイナス的なイメージを持っている再生紙で暗いイメージを払拭する照明を作る事で見る人に意外性を与え意識やイメージ改革につながるのではないだろうか。

## 3.コンセプトの立案

- ・環境を配慮し、過剰包装を行わない。
- ・再生紙が持つ環境に良いという特性を考え、素材に無駄を出さない。

制作にあたり、「環境に良い」というイメージをそのままにマイナス面のみの改善を図る。そのため制作過程においてゴミとなる部分を極力減らす努力をする。

## 4.デザイン展開

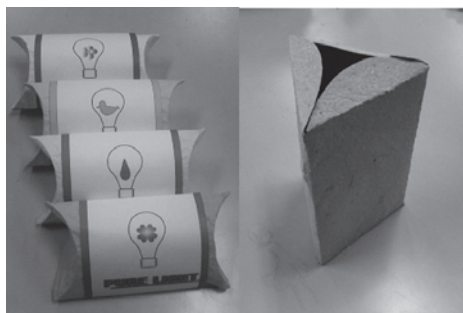
まず、素材にはチラシ・広告・読み終わった新聞など使い終われば捨ててしまうような物を使用する。

再生紙の利用をアピールし、環境保全の目的を達成する為、パッケージとシェードを兼ねるもの考えた。パッケージが製品を兼ねる仕様にし、商品の過剰包装防止にも取り組んだ。購入した側が自分で組み立て作業を行うようにし、自分の手で完成させるため、購入者が積極的に環境保全に取り組んだという意識を持てるようにした。

紙には強度が弱いという難点があり、その点を考慮し照明の形を強度のある三角形にする事で悪いイメージを払拭する。

紙を使った照明はガラス・プラスチックを使った照明に比べ、光を均一に透過させない、ぼんやりと明るい光になる。そのため自然の光に近く、安らぐ・癒されるといった印象を与える。しかし、暗すぎると使用される時間、場所などが限られてしまうため、照明の上下を開け明るさを調節する。

## 5.完成図



## 6.結論

今回の制作で再生紙というものを初めて作ってみたが、普通の紙の状態よりも繊維が粗くどうしても厚い紙になってしまったり薄くできてもやわらか過ぎたり破けてしまったりと難しい紙の加工に悩まされ悪戦苦闘した。最終案では難しいA3サイズで再生紙を制作したのでしなやかさが失われ、光を通しにくい結果になってしまった。紙作りの難しさを改めて実感した。

## 7.参考文献

- ・新刊 紙器とコンストラクションPART1～PART4  
(株式会社パッケージング社)
- ・これは簡単、紙作り  
<http://www.fsinet.or.jp/~nabetaka/kaihatu/mini/kami/index.htm>